

第3回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか  
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー会議

(平成30年4月16日開催)

主な意見と指摘事項と修正について

1. 環境対策の現況報告

指摘事項	対応
<p>・仮置きした表土について、シルト・粘土分が多いと土砂の固化が懸念される。保管時および埋戻し前に土質性状をモニタリングすること。また、固化したものが水に戻した時にどうなるか、状態を確認すること。</p>	<p>・保管時に土質性状を分析実施しました。埋戻し時も同様の項目を分析いたします。</p> <p>・6月21日に保管表土を確認した結果、固化している状況は確認されませんでした。</p>
<p>・仮置き中の土砂性状について、夏季と冬季でどのような状態になるのか不明なため、当面は頻繁に状態を確認してほしい。</p>	<p>・土砂性状を頻繁に確認します。</p> <p>・6月21日に土砂性状を確認しました(資料6-1参照)。今後も継続的に土砂の状態を確認していきます。</p>
<p>・ロガー設置について、現地視察時に設置箇所を確認した結果、矢板からの張り出しが0.3mでは矢板前面に土砂が堆積した際に、埋もれてしまう可能性がある。施工時の支障にならない範囲で可能な限り沖出しすること。</p>	<p>・張出しは、1.5m沖出し、AP-2.5mの地盤高の範囲に設置しました(資料6-1参照)。</p>
<p>・仮設鋼矢板の背面に窪みが形成されている。土砂を投入する等対応すること。</p>	<p>・土砂を投入し、窪地を埋戻しました(資料6-1)。</p>
<p>・綱矢板背面に、台風による地形変化で形成された滞りがぶつかっており、みずみちが形成され、矢板背面の砂の流出が拡大する恐れがある。</p> <p>・矢板を掘り下げる等の対策をし、これ以上滞りによる掘込みが拡大しないようにすること。</p>	<p>・対象となる矢板を掘り下げ、矢板背面の掘込みが深くないように対策しました(資料6-1)。</p>
<p>・干潟浚渫部の矢板付近は、一般の方も多く注意喚起をしっかりとおこない、浚渫範囲が子供でも分かるような工夫が必要。</p>	<p>・大潮干潮時には矢板付近に専属のガードマンを配置し、矢板に近づかないよう注意喚起をおこないました。</p>

## 2. H29 年度定期環境モニタリング結果報告

指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"><li>・アサギの同体については、毎年外部調査と連携しながら、他種に変化していないか確認しながら調査すること。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・千葉県立博物館の菊池先生と大師干潟館で毎年アサギの調査をしています。菊池先生に確認していただきながら、調査を実施いたします。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・魚類調査について、生活史型（汽水魚、河口魚等）がどの種を示すのか、一般の方に分かるように明記すること。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・出現種リストに生活史型を記載して標記いたします。</li></ul>

## 3. コアマモについて

指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"><li>・コアマモ群落については、存在が不安定なため、今後も生育状況について確認していくこと。</li><li>・橋梁が完成した後もコアマモが存在するなら、その際は光量の影響についてもモニタリングすること。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・工事中も引き続き生育状況については確認していきます。</li><li>・事後調査についても実施していきます。</li></ul>